

インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムの設立

日野伸一¹、増野希陸²

九州大学名誉教授（大分工業高等専門学校）¹、株式会社福山コンサルタント²

概要： 現在、我が国のインフラは急速な老朽化が進み、維持管理費の増大、将来的な担い手不足等様々な問題が生じている。そこで、九州地方のインフラメンテナンスにおいて、民間企業の多様な技術に対し、地方自治体のニーズとのマッチングを行い、課題解決策を見出すことが本フォーラムの目的である。初年度は、キックオフフォーラム、第一回ピッチイベントを通してメンテナンス産業の活性化に向けた活動を行った。

1. はじめに

高度経済成長期に集中的に整備された我が国のインフラが今後急速に老朽化することに対する懸念は以前からあったが、平成 24 年に中央自動車道笹子トンネルで起こった天井板落下事故を契機として大きく情勢が動き出した。平成 25 年に政府によるインフラ長寿命化基本計画が策定され、平成 27 年 6 月に閣議決定された日本再興戦略改訂 2015 において、今後、戦略的にインフラメンテナンスに取り組むためにインフラメンテナンス国民会議（仮称）の設立が明記された。そして、少子高齢化で厳しい財政情勢の中、維持管理に係る予算の確保、地方自治体の技術者不足、メンテナンス産業や地域の担い手確保など、きわめて重要な社会的問題として産官学民が一丸として取組み、インフラメンテナンスの理念普及、課題解決およびイノベーションの推進を図るプラットフォームとして、平成 28 年 11 月にインフラメンテナンス国民会議（富山和彦会長）が政府主導の下で設立された¹⁾。

2. 九州フォーラムの設立

インフラメンテナンス国民会議の設立時の目的として、①インフラメンテナンスの理念の普及、②企業等の連携の促進、③地方自治体への支援、④インフラメンテナンスの理念の普及、⑤インフラメンテナンスへの市民参画の推進、の 5 項目が掲げられた。その活動を全国

的に普及推進するため、各地域において地方フォーラムが設立された。

九州フォーラムは、近畿、四国に次いで 3 番目の地方フォーラムとして、平成 30 年 1 月 17 日に設置準備会を経て、事実上設立された。現在の地方フォーラム数は全国 10 団体が発足している。写真-1 に設立準備会の模様を示す。準備会開催の直前、平成 29 年 12 月 1 日現在における九州在住の会員数は、地方自治体 16 機関、民間企業 20 社、団体 5 団体、個人 4 名の合計 45 者であった。

九州フォーラムの設立にあたり、インフラメンテナンス国民会議が掲げた上記 5 項目の目的と産官学民の連携を軸に、九州の地域性を重視したインフラメンテナンスに関する自治体支援や新技術開発ならびにその社会実装に向けた情報交換、ベストプラクティスの水平展開、取組みのマッチングによる課題解決策の構築などについて活動を展開していくことを決定した。また、九州フォーラムの活動に熱意とボランティア精神をもった会員を募り、リーダー及び事務局を兼ねる企画委員を選出した。



写真-1 九州フォーラム設立準備会



図-1 企画運営会議の組織体制

その結果、日野伸一氏（大分工業高等専門学校校長）がリーダーに、また個人2名、団体3団体および企業6社が企画委員に選出された。九州フォーラムの運営組織構成を図-1に示す²⁾。フォーラムとしての活動を活発に推進するため、企画運営会議の中に、自治体支援、技術マッチング、広報、イベントおよび連絡調整の各ユニットを設けて業務を分担する体制を構築するとともに、国土交通省九州地方整備局と緊密に連携しながら運営していくこととした。現在の企画運営会議のメンバーは、学識経験者のメンターも含め、約30名、22機関で構成されている。また、平成31年2月27日現在における九州フォーラムに所属する地方自治体会員は、九州の全県庁を含む83自治体となっている。

3. キックオフフォーラム

九州フォーラムとしての対外的な活動の第一弾として、平成30年7月30日に福岡市内にて、キックオフフォーラムが開催された。そのテーマは、「九州におけるインフラメンテナンスの現状と課題」である。図-2にキックオフフォーラムのポスターを示す。当日の参加者数は253名で、事前申し込みの段階で早々に会場収容定員を上回ったために、途中で参加受付を締め切るほどの盛況であった(写真-2)。このことから、社会的なインフラメンテナンスについての関心の深さが伺われるものであった。

参加者の内訳として、所属別では国および地方自治体からの参加者が全体の約1/4にあたる62名、また県別では福岡県内が35%で、残りの65%が福岡県以外の九州6県に分布し、他の講演・講習会やシンポジウムではみられない九州全域からの参加状況であった。

フォーラムでは、第1部として、国土交通省総合政策局の吉田邦信事業総括調整官に「インフラを取り巻く状況とインフラメンテナンス革命」、長崎市中心総合事務所の森尾宜紀理事に「長崎市におけるインフラメンテナンスの取り組みについて」と題して、それぞれ基調講演をして戴いたのち、第2部として、各界から6

図-2 キックオフフォーラムのポスター



写真-2 キックオフフォーラムの会場



写真-3 キックオフフォーラムでのパネルディスカッション

名のパネリストをお招きして「九州フォーラムへの期待」と題して、パネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションの様子を写真-3示す。会場内では、活発な討議が行われ、地方自治体の厳しい現状報告とともに、「先進的な自治体の取り組みをマッチングさせ水平展開する場となるのが九州フォーラムの役割である」、「行政が過去の実績にとらわれず、民間の新しいイノベーションを活用していくことが必要だ」、「産官学民の一体感をもって、九州から新しい風を吹かしてほしい」などの、数多くの有用な意見、提言がなされた。また、フォーラム開催に合わせ、参加者へ九州フォーラムに対する期待、要望などの声や、地方自治体へは抱えるニーズ、民間企業へは自社の有するインフラメンテナンス技術シーズについてのアンケート調査を実施し、その分析を基に今後の九州フォーラムの活動に生かして行きたいと考えている。

4. 第一回ピッチイベント

九州フォーラムの初年度の活動の第二弾として、平成31年1月24日に福岡市内にて、第1回ピッチイベントを開催した。テーマは「ニーズの深掘り、シーズの種まき」である。図-3に、そのピッチイベントのポスターを示す。

各地方自治体に対して、先に行ったアンケート結果を踏まえ、第1部で、九州フォーラムの今後の取り組みを述べ、写真-4に示す3自治体からのニーズ紹介とそれに対応した民間企業からのシーズの紹介を行った。続く第2部では、第1部を受けての4テーマ、すなわ



インフラメンテナンス国民会議 九州フォーラム 第一回ピッチイベント ～ニーズの深掘り、シーズの種まき～

「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」は、公共インフラの維持管理に関する自治体支援、技術開発推進に向けた情報交換やベストプラクティスの水平展開及び取組のマッチング等により、様々な課題の解決を目指す。平成30年1月に立ち上げた、産・学・官・民からなる活動組織です。前回のキックオフフォーラムでは、九州におけるインフラメンテナンスの現状や課題等について、産・学・官・民の様々な立場から意見を頂きました。今回のフォーラムでは、皆様のご意見を踏まえ、自治体ニーズと民間シーズのマッチングによる課題解決に向けた取組を行います。

主催	インフラメンテナンス国民会議 九州フォーラム	参加費 無料
日時	2019年1月24日(木) 13:30～17:10(12:30受付開始)	
会場	第五博多倍成ビル10F会議室 (福岡市博多区博多駅東1-18-25)	
定員	先着100名 ※要旨の参加申込み書により事前にお申込み下さい。	
内容	<p>1. 開会挨拶 13:30～13:35 フォーラムリーダー 大分工業高等専門学校 校長 日野 伸一(九州大学名誉教授)</p> <p>【第一部】</p> <p>2. 国民会議九州フォーラムのこれからの取組 13:35～13:50 「組織体制、活動方針(FOCA サイクル)、役割およびメリットの説明、今後の課題」 九州フォーラム企画委員 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会九州支部 支部長 福島 宏治</p> <p>3. ピッチイベント 13:50～15:20 各自治体より現状や抱える課題、ニーズの説明を行う。(説明: 1 ニーズ 15分) またニーズに対応するシーズ技術も紹介する。(説明: 1 シーズ技術 5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ1 橋梁点検の効率化技術(大分市) ・テーマ2 道路管理の効率化技術(長洲町) ・テーマ3 橋梁補修の品質向上を図る材料(玉名市) ※詳細は要旨参照 <p>【第二部】</p> <p>4. グループ討議 15:35～16:45 ピッチイベントの3テーマに対して、グループ討議を行い技術マッチング成立を目指す。また、インフラメンテナンスに関する多方面の課題について議論し、解決を目指すためのグループ(テーマ4)も設置する。</p> <p>5. 各テーマの総括 16:45～17:05 ファシリテーターによる各グループ討議の総括・報告</p> <p>6. 閉会挨拶 17:05～17:10</p> <p>◆後援: 国土交通省九州地方整備局 / (公社) 土木学会西支部 / (公社) 日本コンクリート工学会九州支部 / (公社) 地盤工学九州支部 / (一社) 九州建築・構造工学研究会 (KASJ) / (一社) 日本建築建設協会 / (一社) プラスティクス・コンクリート建設業協会九州支部 / (一社) 九州建設技術管理協会 / (一社) 九州地域づくり協会 / (一社) 日本建設業連合会九州支部 / (一社) 建設コンサルタンツ協会九州支部 / (株) 日刊建設工業新聞社 / (株) 日刊建設流通新聞社</p>	

図-3 第一回ピッチイベントのポスター

ち①橋梁点検の効率化技術、②道路管理の効率化技術、③橋梁補修の品質向上を図る材料、④インフラ管理に関する課題の具体化・共有化、に分かれてのグループ討議を行った(写真-5)。それぞれのテーマに関する学識経験者をメンターとして配置し、参加者が4グループに分かれて活発なグループ討議を行い、マッチング成立を目指した。マッチングの結果を以下にまとめる。この際、グループ討議の進行はファシリテーターに一任しており、各グループで様ではないことに留意したい。

【テーマ①】橋梁点検の効率化技術

到達技術水準達成度、作業時間及び安全性の観点から3技術のマッチングを図った。その結

果、「橋梁点検用マルチコプタを利用した近接目視点検支援技術」が、自治体ニーズと合致したため、今後実証フィールドの提供に向けて調整を行うこととなった。

【テーマ②】道路管理の効率化技術

技術概要、実績及び長所等について、4 技術を対象としてマッチングを図った。しかし、この際、特定の技術とのマッチングは成立しなかった。ニーズを発表した自治体は、日常の業務効率化を重要な課題と捉えており、課内で再検討しいずれかの技術に対して実証実験を行うこととなった。

【テーマ③】橋梁補修の品質向上を図る材料

同テーマに応募された5 技術の特徴を各企業が説明した後、ニーズを発表した自治体から直営施工で用いる際の要望や改善点が述べられた。マッチングについても議論された結果、「超耐久防水防食テープ」及び「断面修復箇所の付着性能評価技術」の2 技術が自治体ニーズと合致したため、今後実証フィールドの提供に向けて調整を行うこととなった。

【テーマ④】インフラ管理に関する課題の具体化・共有化

テーマ④は技術マッチングを図るグループ

ではなく、自治体の有する課題を抽出し、共有化を図るものであった。グループ討議を行った結果、「予算」、「人材育成」の2 つが共通する課題であった。「予算」における課題に対して、複数の自治体から直営施工による管理コストの削減を図っている状況が説明された。また、「人材育成」に対しては、国土交通省の研修カリキュラムの活用等のアドバイスもされた。今後これらの課題に対して、維持管理分野の重点化意識を高めるための情報発信が必要との意見も多かった。

当日の参加者については、129 名であり、第一弾と同様に盛況であった。しかし、国及び地方自治体からの参加者は30%程度であり、その内の県別の割合を見ると福岡県、熊本県の二県で約60%を占めていた。福岡で開催したため、アクセスの良い地域から多く参加したと考えられる。宮崎県、鹿児島県からの出席が無かったため、今後はより地域に根ざしたイベントを行い、多地域からの関心を集められるような活動の展開が九州フォーラムの課題である。

5. 今後の活動予定と課題

来年度以降も、九州フォーラムの活動として、



写真-4 ニーズ及びシーズの発表状況（左：ニーズ発表、右：シーズ発表）



写真-5 グループ会議の状況とファシリテーターによる総括

インフラメンテナンスに関わる地方自治体支援や、オープンイノベーションによるメンテナンス技術の発掘、マッチングによる課題解決などに積極的に取り組んでいく予定である。

特に、インフラメンテナンス国民会議への地方自治体の加入状況が現在 30 %程度であるため、更なる会員拡大に向け勧誘活動を進めていく必要がある。そのためにも、九州での活動が福岡市に偏ることなく、**図-4**に示すように九州各県でのイベント実施および拠点形成に努め、各地域での草の根運動的な普及活動を図る必要がある。そのためのキーマンは、各県庁、国の道路・河川・港湾などの各事務所および地域の大学・高専の学識経験者であり、彼らに参加協力を求めている。

次に、現在、国内で 10 団体の地方フォーラムが組織され活動を展開しているが、各地方フォーラム間の連携がきわめて重要であると考え。平成 30 年 12 月 6 日に、インフラメンテナンス国民会議の総会に合わせ、地方フォーラム交流会が開催された (**写真-6**)。各地方フォーラムの活動状況と抱える課題に

ルマガを通じてのみ行われているが、今後は、より連携しての情報共有や活動の展開が望まれる。

さらに、インフラメンテナンスへの市民参画の具体的な進め方、そして、現在、活動経費や



写真-6 地方フォーラム交流会

マンパワーをボランティアに依存している地

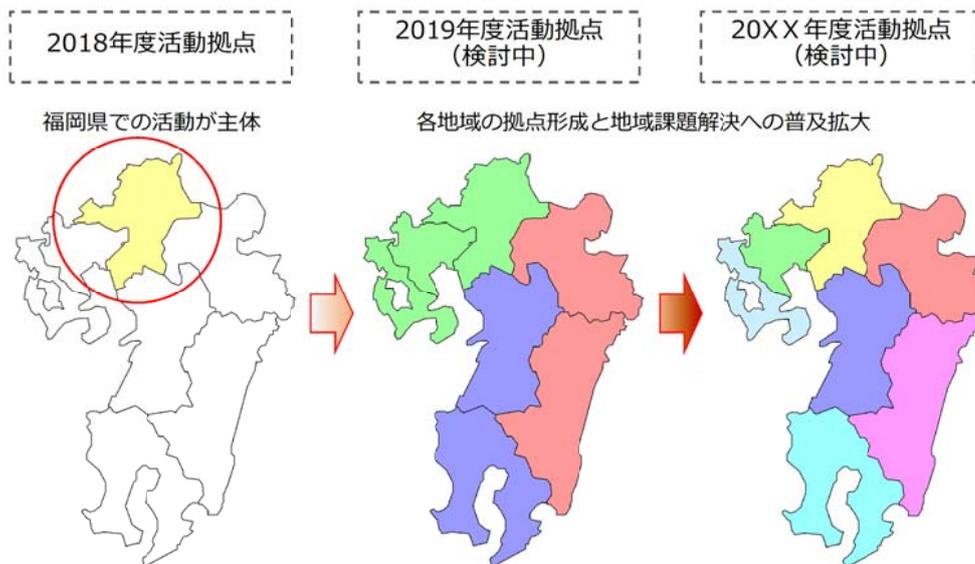


図-4 九州各県での活動の展開イメージ

ついて意見交換が行われた。いずれの地方フォーラムも同様に、講演会や自治体ニーズ・民間シーズの収集、マッチングイベント、現場実証試験などの取り組みを展開している。これらの情報の横展開は、現状は国民会議メ

方フォーラムの運営体制について、今後、永続的に自立可能なものとして定着させることがきわめて重要な課題であると考え。

おわりに

少子高齢化時代を迎え、国および地方自治体の財政状態もますます厳しさを増す中、インフラマネジメントに対する国民一人一人の理解を得て、産官学民の連携によるインフラマネジメントに取り組むという国民会議の精神がきわめて適切かつ重要であるということは誰もが認めるところである。九州は、これまで歴史的にも産官学の連携による学協会活動や市民活動が活発に展開してきたという風土がある。是非とも、九州の産官学民の連携をより一層強化し、インフラマネジメントを通じて安全・安心で、豊かな未来を子孫に残せるよう、各位のご理解、ご協力を切望するものである。

最後に、インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムの活動に参加、協力を戴いた、企画委員の各機関および会員の方々、そして公益事業の一環として助成金をご提供戴いた、(一社)九州建設技術管理協会に対し、深甚ある謝意を表する次第である。

2) インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムホームページ :

<http://www.imkyushu.jp/index.html> 、2018

参考文献

1) インフラメンテナンス国民会議ホームページ :

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/im/>、2018